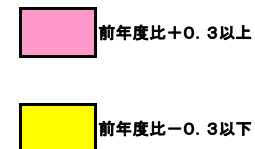


令和2年度 上江小中学校中学部「学校評価」

評価基準: A(4)よくあてはまる B(3)ややあてはまる C(2)あまりあてはまらない D(1)あてはまらない N わからない

目標	No.	評価項目	教師平均	生徒平均	保護者平均	全体平均
学力の向上	1	先生達は、授業でわかりやすい授業づくりに努めている。	2.9	3.1	3.1	3.0
	2	自分は、先生の話や発表する生徒の話をしっかり聞いている。	2.7	3.3	2.9	3.0
	3	先生達は、小学校などの以前に習った内容を確認しながら授業を進めている。	3.3	3.2	3.0	3.2
	4	先生達は、小学校などの以前に習った内容を確認しながら授業を進めている。	3.1	3.3	／	3.2
	5	自分は、家庭学習の課題を期日までに取り組んでいる。	2.9	3.3	3.1	3.1
	6	先生達は、課題に取り組んできたかを確認し、やり直しをさせている。	2.9	3.3	3.1	3.1
	7	先生達は、一人一人の個性を生かしながら、進路指導の充実に努めている。	3.2	3.6	3.2	3.4
豊かな心の育成	7	先生達は、一人一人の個性を生かしながら、進路指導の充実に努めている。	2.9	3.1	3.1	3.0
	8	教育課程特例校による「英語表現」の授業実践が、外国語能力の向上につながっている。	2.7	3.5	3.1	3.1
	9	自分は、元気なあいさつができています。	3.1	3.3	3.1	3.2
	10	自分は、家族・友達・先生方に正しい言葉遣いで話すことを心がけている。	3.1	3.1	3.0	3.1
	11	先生達は、同じ基準で生徒指導に取り組んでいる。	3.1	3.0	3.2	3.1
	12	学校は、生徒会が自発的・自治的に活動できるように実践活動の場を与えている。	2.7	3.3	3.4	3.1
体力の向上	13	自分は、普段からよく本を読む。	2.4	2.3	2.2	2.3
	14	自分は、生活の中で、自ら進んで安全な行動が取れるように心がけている。	3.1	3.2	3.1	3.1
	15	自分は、進んで部活動に取り組んでいる。	3.0	3.0	3.2	3.1
地域に貢献する人材の育成	16	自分は、正しい姿勢(立腰)で授業を受けている。	3.1	2.5	3.2	3.0
	17	自分は、食への関心があり、食事のマナーができています。	3.2	3.3	2.9	3.2
	18	自分は、えびのに関心があり、えびののよさに気付いている。	2.4	3.3	3.0	2.9
特別支援教育	19	先生達は、自分たちの学校での様子などを積極的に家庭に連絡している。	2.8	2.8	3.1	2.9
	20	学校は、情報発信を適切に行い、地域や家庭と連携して教育活動を行っている。	2.9	／	3.2	3.0
	21	研修等を通して障がいの特性を理解し、個に応じた指導に当たっている。	2.8			
22	将来、社会人として自立できるように、必要な支援を行っている。	2.8				



【全体的に低い評価】

- 読書習慣の形成
- えびの学への関心・よさ(評価のずれ)
- 家庭での学校情報の発信
- 特別支援の視点に立った個に応じた指導
- 社会人としての自立と必要な支援

令和2年度 えびの市立上江小中学校 中学部「学校運営協議会評価書」			
【学校教育目標】 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成			
【めざす児童生徒像】 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子			
項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題(改善策等)
学力の向上	<p>(1) 時間の設定や指導方法の工夫等、組織的な体制づくりに努め、系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図り個に応じた指導の充実を進める。</p> <p>(2) 校内研修を通して、職員の授業改善を図る。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした望ましい学習習慣や家庭学習の定着を図る。</p> <p>(4) 教育課程特例校による「英語表現科」の授業実践を通して</p>	<p>○出張等を考慮し、その都度時間割を変更することで、自習が出ないようにしている。</p> <p>○朝の時間に3年生は5教科の指導、1・2年は読書等に取り組んでいる。また新型コロナ対策で実施していた音読の代わりに生徒の学習方法改善のため、1年生は読書を視写や基礎教科のドリル学習に変えたりして学年の実態に合うように工夫している。</p> <p>○全職員が相互の研究授業を実施して先生方に授業を参観していただき、授業改善を図っている。</p> <p>○小中で系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図っている。 ～中教員による乗り入れ授業～ ・中学部の理科担当が小学部5・6年の理科を担当 ・中学部の音楽担当が小学部の3～6年の音楽を担当</p> <p>○小中合同の学習部会で足並みをそろえながら、各学年に応じて立腰教育の推進及び基本的な学習習慣の確立を図るため、学習用具、2分前着席1分前黙想等で共通実践を図っている。</p> <p>○「英語表現科」の学習を通して、英語の能力向上を図る。そして、社会が求める実践的な英語力の育成を進める。</p>	<p>○自習がないようにするため、教務で時間割の調整を行った。年度当初の新型コロナウイルス対策で臨時休業になり心配したが、総合的な学習(えびの学)や体育大会、文化祭の準備時間の縮小により結果的には授業時間数への影響が最小限にとどまった。今後も、個に応じた指導の充実のため授業改善に取り組むためには、時数の余裕は必須条件であると考えている。</p> <p>○朝の時間を活用した3年生の5教科指導は、教科の授業改善と合わせて、良い結果につながった。</p> <p>実力診断テストによる分析でも、各教科地区平均を越え、回を重ね後半で良い結果を残すことができた。1, 2年生についても、同じ指導方針の下、良好な結果を残すことができた。</p> <p>●朝の読書や音読が、生徒の読書の習慣化につながっていない。保護者の認識はさらに厳しい。実態に合わせた朝の取組の模索も課題。(集計用紙 豊かな心-11)</p> <p>○主題研においてメンターチームによる学力向上の取組を行い、指導力向上の機会を積極的につくることができた。生徒からの信頼感がデータに見える。</p> <p>○小中併設校のメリットである小中教員による乗り入れ授業は順調に進めることができた。今後は</p>
豊かな心の育成	<p>(1) 読書活動の推進のための積極的な働きかけを図る。</p> <p>(2) 元気なあいさつを基本に、主体的な児童会・生徒会の活動を促し、望ましい人間関係の醸成を図る。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。</p>	<p>○朝は水曜日を除いて、読書の時間を設定している。今後は読書感想文コンクールへの取組や読書冊数表彰を通して、読書への意欲付けを行う。</p> <p>○生徒会活動の一環として、朝のあいさつ運動を4月に実施した。今後は新型コロナ対策を念頭に入れ、生徒たちの企画による行事運営でより達成感等を味わわせながら、より主体的、積極的な取組を継続していく。</p> <p>○人間関係をうまく築けなかったり、維持できない生徒のために、人権教育や道徳教育の視点で教育活動に取り組んでいる。</p> <p>○小中合同運動会や白鳩際などの学校行事を行うにあたり、生徒一人一人に役割を与えるようにしている。そのことで、小学生の手本となるように主体的に活動し、その責任を果たすとともに、達成感を味わわせるように指導を進めている。</p>	<p>●朝、読書の時間を設定して、読書を推進している。生徒の読書量の差には依然として開きがある。</p> <p>○コロナ禍で集団での活動が制限される中、読書への生徒への働き方を模索したい。</p> <p>○朝のあいさつ運動は、コロナ禍のため、集団活動への制限がかかり、生徒会の取組として挨拶運動は4月当初のみで、年間を通して実施することができなかった。卒業式、入学式に向けた一人一鉢栽培は順調に取り組んでいる。</p> <p>○ほとんど生徒は学年・男女関係なく、仲良く学校生活を送ることができた。転入してくる生徒も、</p> <p>・大抵新しい学校環境に慣れている。→さらに人権教育の観点に立った学級づくりを進めたい。</p> <p>○保護者や指導者の協力のもと、どの部も少ない人数の中、意欲的に活動できた。本年度は部活動指導員1名(新体操部)の活用により部活動の競技力向上に取り組んでいる。</p> <p>○体力テストの結果を踏まえて、体育の授業で改善を図る取組や意識付けを行うことができた。</p> <p>●アンケートの結果からも、生徒の意識の中に立腰に対して意識がマンネリ化が見えた。生徒の見方と教師・保護者の見方と大きなずれがある。</p> <p>●給食の機会も学年によって差がある。コロナ禍で小中合同での給食感謝会や学業勉強会も休止した。</p> <p>○本年度は、コロナ禍のため、地域の方々、社会教育課の方々の様々なご協力や応援の下、地域教育活動を行うことができなかった。幸運にも、12月に実施した森林教室は、貴重な生徒の地域理解につながる活動になった。</p> <p>●コロナ禍のため中止になった4月の引き渡し訓練は、昨年度いくつか課題が見られた部分を見直し、</p> <p>て次年度実施を進めたい。特に運動場を活用した引渡し訓練は、次年度実施を進めたい。</p> <p>○定期的な学校だよりの発行、随時ホームページの更新や安心安全メールでの連絡ができ、学校の取組や生徒の活動状況を知らせることができた。</p>
体力の向上	<p>(1) 小中一貫の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。</p> <p>(2) 立腰指導の徹底や部活動の推奨をととして体力の向上を図る。</p>	<p>○部活動は顧問、外部指導者の熱心な指導と保護者後援会の連携で、充実した活動ができている。</p> <p>○小中合同の保健部会で足並みをそろえながら、体力テスト結果を踏まえて、強化すべきトレーニング等の共通理解を図っている。また、小中合同での持久走記録会を通して、体力を向上させることの必要性や重要性を理解させ、自主的に意欲的な練習につなげている。</p> <p>○授業の始まりと終わりを中心に小中で共通した立腰指導を図っている。</p> <p>○給食での日常指導や年間2回の「弁当の日」の実施を通して、残さない、好き嫌いをしない、感謝して食べる等の食育指導を進めている。 ※本年度は弁当の日は1回(コロナのため)</p>	<p>○保護者や指導者の協力のもと、どの部も少ない人数の中、意欲的に活動できた。本年度は部活動指導員1名(新体操部)の活用により部活動の競技力向上に取り組んでいる。</p> <p>○体力テストの結果を踏まえて、体育の授業で改善を図る取組や意識付けを行うことができた。</p> <p>●アンケートの結果からも、生徒の意識の中に立腰に対して意識がマンネリ化が見えた。生徒の見方と教師・保護者の見方と大きなずれがある。</p> <p>●給食の機会も学年によって差がある。コロナ禍で小中合同での給食感謝会や学業勉強会も休止した。</p> <p>○本年度は、コロナ禍のため、地域の方々、社会教育課の方々の様々なご協力や応援の下、地域教育活動を行うことができなかった。幸運にも、12月に実施した森林教室は、貴重な生徒の地域理解につながる活動になった。</p> <p>●コロナ禍のため中止になった4月の引き渡し訓練は、昨年度いくつか課題が見られた部分を見直し、</p> <p>て次年度実施を進めたい。特に運動場を活用した引渡し訓練は、次年度実施を進めたい。</p> <p>○定期的な学校だよりの発行、随時ホームページの更新や安心安全メールでの連絡ができ、学校の取組や生徒の活動状況を知らせることができた。</p>
地域に貢献する人材の育成	<p>(1) 「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する愛着や理解の深化を図る。</p> <p>(2) 積極的な地域・関係機関との連携や外部人材の活用により、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした系統的なキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>○新型コロナ対策を踏まえた「えびの学」の学習を進めて行きたい。具体的には、職場体験学習(2年) 手話教室(3年) 米作り体験(1年) 地域の方々との交流会(1年) 職場訪問(1年) 森林教室(全学年)等のできるものを今年度一部だけ実施する。また、ネット環境を活用して対策を行いながらできる活動の研修も進める。</p> <p>○地域学校協働活動や関係機関との連携を進め、外部人材を活用する学習をより効果的、効率的に実施する。本年度は1月に地域学校協働活動を活用して、1年(社会人の声を聴く会)を計画している。</p> <p>○学校だよりの発行、HPの随時更新、学級通信の発行などの情報提供を行っている。また、保護者には安心安全メールで随時不審者情報や学校の教育活動を案内している。</p> <p>○各学年に応じて、自己理解を深めながら、主体的に進路選択ができる資質・能力を培うために、高校説明会をはじめとするさまざまな体験学習の充実を図っている。</p>	<p>○本年度は、コロナ禍のため、地域の方々、社会教育課の方々の様々なご協力や応援の下、地域教育活動を行うことができなかった。幸運にも、12月に実施した森林教室は、貴重な生徒の地域理解につながる活動になった。</p> <p>●コロナ禍のため中止になった4月の引き渡し訓練は、昨年度いくつか課題が見られた部分を見直し、</p> <p>て次年度実施を進めたい。特に運動場を活用した引渡し訓練は、次年度実施を進めたい。</p> <p>○定期的な学校だよりの発行、随時ホームページの更新や安心安全メールでの連絡ができ、学校の取組や生徒の活動状況を知らせることができた。</p>